



第2回学校運営協議会が開催されました

10月29日(火)15時半より、あやめルーム(会議室)にて原小学校第2回学校運営協議会が開催されました。今回は主として学校の取組の中間報告を学校運営協議会委員の皆様へお伝えしました。協議内容は、次の通りです。

○学校の取組の中間報告

- ・学力向上に向けた取組
- ・研究推進の取組
- ・生徒指導の現状と取組
- ・体力向上、健康・食育の取組

○中間報告についての質問意見

○熟議(自己表現の力をどう育てるか?)



後半は、コミュニティスクール推進員(平井)から学校の「自己表現の力」を育てる取組の中間報告をしました。その後、学校運営協議会委員の皆さんに学習発表会に向けてのアドバイスや期待すること等を自由記述で書いていただきました。北岡地域学校協働活動推進員からは、先日の第3回地域学校協働活動コーディネーター養成講座を受けての教育課程の可視化について、防災行政無線放送の活用継続について等の話がありました。

〈協議の中で出された主な質問や意見〉

○目の見えない人への理解を図ったり、車椅子体験など、良いことなので原小でも取り組んではどうでしょうか？

A: 数年前まで国語科に盲導犬の単元があった時には、継続的に福祉体験を行っていたので、取組は可能です。

○タブレットトレーニング(タブトレ)やトークトレーニング(トクトレ)は、どの時間帯に行われていますか？

また、それは国語科のみの取組ですか？

A: 基本的には 8:15～8:35 です。一人一台端末(タブレット)は、国語科以外にも全ての教科等の時間でも常に活用できるように準備しています。一人一台端末(タブレット)は、みんなの考えを交流する場面で有効です。みんなの意見をタブレットで確認できる効果的な活用も図っています。トクトレの成果でタブレットのスキルが上達し、キーボード入力が速くなりました。ペーパーレスの世の中ですが、必要に応じて紙に書くことも大切にしています。

〈学校運営協議会委員の皆さんから出された学習発表会に向けてのアドバイスや期待すること等〉

○近年の学習発表会を見て感じることは、特に劇の発表で声が小さく発音も聞き取りにくいことです。近距離で普通の会話をするような台詞の発音になっている児童がしばしば見られます。これは、児童たちが発表の手本となるものをイメージできていないためではないかと考えます。観劇、演奏会等、年に数回全校で鑑賞する場があると、テレビや動画では伝わらない表現の迫力が伝わり、イメージできるのではないかと思います。

○日々の学習の中で、百科事典の活用を進めて頂ければと思います。原自治協より百科事典(ポプラディア)のセットを寄贈しております。また、タブレットにもブリタニカの百科事典が入っていますので、いろいろなものについて調べることで、語彙力、説明力のアップにつながるのではないかと思います。

○自己表現のきっかけづくりとしての挨拶(おはよう～おやすみ)、家庭や地域での生活の中の各場面の表現トレーニングが大切。自ら率先して発言する。

○笑顔で答えるなど、言葉だけでなく体現での表現方法もある。高学年は恥ずかしさもあるが、それを理解することも大切。

○みんな、とにかく大きな声を出して台詞を言おう！ 台詞を忘れても思いついた言葉で自信をもって言えばOK。

○自己表現とは、自分の気持ちを自分の言葉で表現することのように思います。学習発表会は、学んだことを発表する場と捉えています。

○もし学習発表会の中に自己表現を入れるとすれば、台詞を自分で考える、音楽を自分で作るなどの工夫があると、自己表現といえると思います。

○打ち上げ花火的なものも必要です。・・・が、学習とつながりを持たせたものも大切だと思います。

○職員の皆さんの過重負担にならないよう祈っています。でも、発表するためにはそれ相当の練習も必要です。難しいところだと思います。

○発表会前、当日、後、子どもの力を使う工夫を。

○夏祭りの防災行政無線放送、聞きました。とても良かったです。

○子ども一人ひとりの好きな形での表現で参加できるようにしたいと、保育所でも考えています。(絵画表現が好きなら大道具小道具作り、文章表現が好きなら台本作り、作曲が好きなら音響準備など)

○自分たちで1から考えていけると、達成感・満足感が違うのではないかと考えています。

○去年の「菖蒲の前伝説」の篠笛は、練習時間が少なく音が出ていなかった。

○スクールバンド、小編成のため楽曲を選ぶのが難しくなっている。

○劇団を呼んで、演技方、発声方法を学んだり、アナウンサー(例えばFM東広島)を呼んで、よく聞こえる発声方法を学んだりすることも必要では。

○台詞を言う前には、しっかりと息を吸う。台詞は聞こえないと意味がないので、しっかりと息を吸って大きくはっきりと言葉を出すことが大切です。

○小学校6年間で2回程度、プロの劇団の表現を体験させてはどうか？

(コミュニティスクールの取組にかかわって)

○段階的に子ども主体としたい。(子ども達が考える)

○地域の人達と一緒に参画できるものを。

・文化祭でのフリーマーケット

・運動会や夏祭りでの音頭、盆踊りの指導も、最初は大人による指導が必要だが、段階的に高学年が下の学年に教えていくような流れが理想的。

○他地域にはない防災行政無線放送の活用の継続(夏祭り、学習発表会、文化祭)。

(地域学校協働活動コーディネーター養成講座より)

① 教育課程(カリキュラム)の可視化(一覧表にする)が重要 → 地域の方とのカリキュラムの共有が可能になる(特に「原という地域のたから」にかかわって)。

② 知的レベルが高い一方で様々な体験が不足していると、一般常識的な雑談についていけなくなり、人間関係において閉鎖的になりやすい。